

《教養科目》

科目名	健康・スポーツ				
担当者氏名	古木 竜太				
授業方法	実技	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		1-1 教養 2-2 知識・技能			

《授業の概要》

いつの時代も健康的な生き方は人類の理想でありながら、近年は身体を動かして活動することや他者と関わる機会が希薄になった時代ともいえる。そこで、本科目では球技などのチームスポーツを通じて、健康の維持・増進を図りながら、チームスポーツにおける協働について学ぶ。社会は協働できる職業人を求めていることを念頭に置き、様々なチームスポーツを通じてコミュニケーションスキルを身につける。

《授業の到達目標》

本科目では、主に球技などのチームスポーツを通じて、以下の目標の到達を目指す。本授業で取り組むスポーツ各種の基本的なルールを理解して基本動作を修得し、ゲームを実践することができる。誰とでも良好な人間関係を構築しながら、チームパフォーマンスが高まる方法を考え、実行することができる。チームスポーツにおけるコミュニケーションについて説明できる。

《成績評価の方法》

本授業で取り組むスポーツ各種の成績およびチームへの貢献度を75%、課題レポート25%とし、総合評価60点以上を合格とする。積極的なプレーや意欲などを加点要素、消極的なプレーは減点要素として評価する。

《テキスト》

Microsoft社製のTEAMSを用いて、履修者専用のチームを作成し、必要に応じて資料を履修者専用チームにて提示する。

《参考図書》

豊田 博（編）他『最新スポーツルール百科2000』．2000年4月15日．大修館書店
平下政美『実践・生涯スポーツ』．平成7年5月19日．不昧堂出版
中村敏雄（編）『スポーツ文化論シリーズ スポーツコミュニケーション論』1995年7月15日．（有）創文企画

《授業時間外学習》

本授業で取り組む、スポーツ各種に関する基本的なルール・基本動作について、予習・復習しておくこと。（本授業では15時間の時間外学習を必要とする）

《課題に対するフィードバック等》

課題レポートは授業終了後に提出し、コメントを記載して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心身の健康とスポーツ活動	健康の維持・増進を目的としたスポーツ活動の意義、授業内容や評価方法に関する説明〔時間外学習〕TEAMSで提示した内容について予習・復習すること（合計1時間）
2	体育大会の競技練習	体育大会競技種目の実践、競技方法の理解と出場種目決め〔時間外学習〕TEAMSで提示した競技種目について予習・復習すること（合計1時間）
3	ポッチャ練習	基本的なルール、得点集計、戦術の理解、ゲームの実践〔時間外学習〕ポッチャの基本的なルール、得点集計について予習・復習すること（合計1時間）
4	ポッチャリーグ戦	各チーム総当たりのリーグ戦〔時間外学習〕チーム内で戦術に関するミーティングを行い、ゲームに勝つための予習・復習をすること（合計1時間）
5	バレーボール基礎練習	基本的なルールの理解、チームワークを深める練習、基本動作の練習〔時間外学習〕参考図書 で基本的なルールを予習、基本動作を復習すること（合計1時間）
6	バレーボールミニゲーム	ルールの理解を確認するミニゲーム、基本動作の反復練習〔時間外学習〕パフォーマンスレベルについてチーム内で話し合い、練習する（予習・復習1時間）
7	バレーボールリーグ戦の実施（1）	各チーム総当たりのリーグ戦〔時間外学習〕本次のゲーム結果を振り返り、パフォーマンスレベルが向上する練習に取り組む（予習・復習1時間）
8	バレーボールリーグ戦の実施（2）	前次に引き続きリーグ戦を行う〔時間外学習〕パフォーマンスレベルが向上する練習に取り組む、総合成績についてチームで話し合う（予習・復習1時間）
9	協働ゲーム	チームワーク、コミュニケーションを深めるための運動ゲーム〔時間外学習〕TEAMSで提示した内容について予習・復習すること（合計1時間）
10	サッカー・バドミントン基礎練習	基本的なルールの理解、チームワークを深める練習、基本動作の練習〔時間外学習〕参考図書 で基本的なルールを予習、基本動作を復習すること（合計1時間）
11	サッカー・バドミントンリーグ戦の実施	各チーム総当たりのリーグ戦を行う〔時間外学習〕サッカーはパスワークの練習、バドミントンはストロークの反復練習（予習・復習1時間）
12	ポートボール基礎練習	基本的なルールの理解、チームワークを深める練習、基本動作の練習〔時間外学習〕参考図書 で基本的なルール（バスケ）を予習、基本動作の復習（合計1時間）
13	ポートボールリーグ戦の実施	各チーム総当たりのリーグ戦を行う〔時間外学習〕パフォーマンスレベルが向上する練習に取り組む、総合成績についてチームで話し合う（予習・復習1時間）
14	エアロビックダンス	ストレッチ、基本的なステップ〔時間外学習〕参考図書 のエアロビクスに関する内容と基本的なステップについて予習・復習すること（合計1時間）
15	ドッジボール	基本的なルールの理解、チームワークを深める練習、ゲームの実践〔時間外学習〕TEAMSで提示した基本的なルールを予習、総合成績についてチームで振り返る（合計1時間）

《教養科目》

科目名	情報処理				
担当者氏名	中平 浩介				
授業方法	実習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能				

《授業の概要》

ICT(Information & Communication Technology)社会の到来を受け、情報処理技術が職場や日常生活の中に広く普及しておりその修得が期待されている。そこでこのような社会のニーズに応えるため、ワープロ、表計算といったアプリケーションについて学び、またインターネットを利用する際の注意点や検索技術、タイピング技術、情報倫理に関する知識についても学ぶ

《テキスト》

大石博雄 イチからしっかり学ぶ!「Office基礎と情報モラル」(Office365・Office2019対応) noa出版
大石博雄 2022年度版情報倫理ハンドブック」noa出版 Webテキスト

《参考図書》

《授業の到達目標》

情報倫理について説明できる
キーボードのスムーズな操作ができる
ワードの基礎的な操作ができる
エクセルの基礎的な操作ができる
パワーポイントの基礎的な操作ができる
インターネットを使って情報検索ができる

《授業時間外学習》

時間内に終わらない課題については、次の授業までに完成させておくこと
タイピング練習を5分～10分程度行うこと
毎回の授業について、予習、復習(概ね1時間)の自己学習が必要である

《成績評価の方法》

定期試験(70%)を基本とし、小テスト(20%)、課題などの提出(10%)授業態度等を考慮して総合的に評価し、60%以上を合格とする

《課題に対するフィードバック等》

提出された課題については内容を確認し、講評などでフィードバックする

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本学コンピュータシステムの概要	本学コンピュータシステムの利用方法、ネットワークを利用するための留意点、個人用フォルダ、パスワードの扱い、Office365、Office2013
2	情報倫理、インターネット	情報セキュリティ、情報リテラシー、著作権、個人情報の取り扱い、ネットコミュニケーション、ウイルス 準備学習：情報倫理ハンドブックの1・2を読んでおくこと。
3	情報倫理、タイピング	コンピュータを利用するために必要不可欠なキーボード操作(タイピング) 準備学習：情報倫理ハンドブック3・4を読んでおくこと。
4	情報倫理小テスト、パソコン操作	エクスプローラ、ファイル操作、フォルダ操作、移動とコピー、ファイル管理 準備学習：テキストP2-34を読んでおくこと。
5	ワードの基礎(起動と設定)	起動、スタート画面構成、新規作成、文書画面構成、印刷、IME設定、入力と変換、範囲指定、一括変換と文節変換 準備学習：テキストP35-65を読んでおくこと。
6	文書作成(表作成)	書式設定、インデント、罫線、表作成、表編集、画像挿入、印刷 準備学習：テキストP66-87を読んでおくこと。
7	文書作成(レポート作成)	表紙の作成、編集、図の挿入、グラフの挿入、引用、図表番号、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正 準備学習：テキストP88-104を読んでおくこと。
8	エクセルの基礎	起動、スタート画面、ブックの新規作成、画面構成、範囲指定、終了処理 準備学習：テキストP105-112を読んでおくこと。
9	表の作成	データの入力、訂正、削除、オートフィル、フォント設定、配置設定、表示形式設定、罫線、行や列の変更 準備学習：テキストP113-126を読んでおくこと。
10	表の編集	印刷イメージの確認、改ページ、ページ設定印刷タイトルの設定、ヘッダー、フッター、印刷 準備学習：テキストP127-132を読んでおくこと。
11	計算の設定	計算式、数式、演算記号、参照、関数の利用 準備学習：P133-155までを読んでおくこと。
12	グラフ作成 エクセル小テスト	グラフの種類、グラフ作成、移動とサイズ変更、グラフの要素、グラフの編集、複合グラフ 準備学習：P156-178まで読んでおくこと。
13	パワーポイントの基礎	プレゼンテーションの基本、プレゼンテーションの要点、形式、ツール、プレゼンテーションの流れ、適切なコントロール設定 準備学習：P180-187までを読んでおくこと。
14	パワーポイントの起動と作成	起動、スタート画面、画面構成、スライド作成、効果の設定 準備学習：P188-205までを読んでおくこと。
15	パワーポイントの編集	ワードアート、SmartArt、おなじみ画像、Excelの方とグラフの挿入、図形の作成 準備学習：P206-P221までを読んでおくこと。

《教養科目》

科目名	英語 A				
担当者氏名	江川 澄男				
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

「頭では分かっているがなかなか英語が口から出てこない」この悩みを克服するには、英語を「文字」ではなく「音声」から入り、繰り返し聞いて声に出す(Say it Aloud)ことが重要です。そこで、授業を『Q&A Practice』『Dialog Practice』『自己表現』の3部構成とし、英語が苦手だった学生でも授業を楽しみながら、基礎からやり直しができる授業展開とします。また、世界各国の生活や英語の歌を紹介します。

《テキスト》

三浦笙子他著 「基礎からのクイック・レスポンス」 三修社

《参考図書》

西沢恒志、多々良和臣、マイケル・シャワティ著「日常英語の総合トレーニング」鶴見書店

《授業の到達目標》

- (1) 多彩なwarming-upや言語活動を通して、楽しみながら基礎的な英語力や表現力を習得することができる。
- (2) 英検準2級取得に必要な英語力を習得することができる。
- (3) 日常会話に不可欠な表現を学び、多彩なコミュニケーション活動を通して、英会話力を高めることができる。
- (4) 世界各国の生活や文化に関心を高めることができる。
- (5) 英語の歌に関心を高め、歌うことができる。

《授業時間外学習》

- 英語を確実に習得するため、以下のことを心掛けましょう。
- (1) 日頃から英語を聞いて英語を耳から覚えましょう。
 - (2) 習った単語や英文を自分の言葉に直して覚えましょう。
 - (3) 「聞く/話す/読む/書く」活動を繰り返し行いましょう。
 - (4) 英文日記やエッセーを毎日書くようにしましょう。
 - (5) 英検やTOEICを受験し英語力を確かめましょう。

《成績評価の方法》

期末考査(50%)に、小テスト・宿題・自己表現・学習態度などを含む平常点(50%)を加算します。総合評価 S:90%以上、A:89~80%、B:79~70%、C:69~60%で、59%以下を不合格とします。特に、授業中での意欲的な態度・積極的な発言・授業への協力などを重視します。

《課題に対するフィードバック等》

授業には教科書、A4 ファイルを必ず持参してください。毎回自作のwork sheetを配布・使用しますので、ノートは不要です。基本的な事項は繰り返して定着を図ります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	指導方針、学び方、授業体験、英会話	(授業内容) ガイダンス、目標設定、授業の受け方、英語の学び方、英会話、体験授業(準備学習) Unit1の単語を調べ、本文と訳を書いてくる
2	Unit 1 Nice meet you.	(授業内容) 感情表現練習、Vocabulary、Dictation、内容理解、音読、英会話(準備学習) 疑問文や否定疑問文の用法を予習する。
3	Unit 1 Nice meet you.	(授業内容) 5 hints game、Listening、音読、Q&A、否定疑問文の応答、自己表現(準備学習) 否定疑問文の応答の仕方を予習する
4	Unit 2 What are you doing?	(授業内容) 科学実験&T-FTest、Listening、Vocabulary、内容確認、英会話(準備学習) Unit2の単語を調べ、本文と訳を書いてくる。
5	Unit 2 What are you doing?	(授業内容) 記憶力Game、Listening、Q&A Practice、Cloze Test、W/H、自己表現(準備学習) 5WiHの疑問文の用法と応答の仕方を予習する。
6	Unit 3 How much are they?	(授業内容) Information Gap Game、Listening、Vocabulary、Dictation、英会話(準備学習) Unit3の単語を調べ、本文と訳を書いてくる。
7	Unit 3 How much are they?	(授業内容) Speaking、T-F Test、Input Drill、音読、Q&A Practice、自己表現(準備学習) How疑問文の用法を確認し、会話文を書いてくる。
8	Unit 4 I went to Okinawa.	(授業内容) Dialogue Practice、不規則動詞の変化と表現、時制の区別、英会話(準備学習) Unit4の単語を調べ、本文と訳を書いてくる。
9	Unit 4 I went to Okinawa.	(授業内容) 科学実験(2)&T-F Test、Listening、Q&A、音読、Pair Work、自己表現(準備学習) 過去形の用法を確認し、日記を書いてくる。
10	Unit 4 I went to Okinawa.	(授業内容) 英検Drill、Listening、Vocabulary、Dictation、Dialogue、英会話(準備学習) Unit5の単語を調べ、本文と訳を書いてくる。
11	Unit 5 I'll probably visit.	(授業内容) Telling Pictures & T-F Test、Listening、Q&A Practice、自己表現(準備学習) 助動詞の用法を調べ、例文を3つ書いてくる。
12	Unit 5 I'll probably visit.	(授業内容) Magic & T-F Test、Vocabulary、Dictation、Listening、英会話(準備学習) Unit6の単語を調べ、本文と訳を書いてくる。
13	Unit 6 Who do you respect?	(授業内容) Topic News & T-F Test、Listening、音読、Pair Drill、自己表現(準備学習) mustやshouldの用法をレポートにまとめる。
14	Unit 6 Who do you respect?	(授業内容) Interview、T-F Test、Listening、Vocabulary、受動態、英会話(準備学習) Unit7の単語を調べ、本文と訳を書いてくる。
15	Unit 1 ~ 6 The person I respect	(授業内容) 定期考査の準備学習、iPadを用いた調べ学習、課題作文、自由英作文(準備学習) “私の尊敬する人”をテーマに英作文してくる。

《教養科目》

科目名	日本語と表現				
担当者氏名	吉野 寿一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

日本語に関する基本的な内容を理解し、それを生かして、音声言語（話す）・文字言語（書く）の両面にわたっての技能の向上を図る。

グループによる協議・発表等、アクティブ・ラーニングの手法を用い、主体的・対話的な学習を通して、必要な技能を身に付ける。

《授業の到達目標》

目的・相手・場等に応じて、適切な日本語を用いて表現することができる。

音声・文字の両面にわたって、その特性を踏まえ、適切に日本語を表現することのよさを理解し、実践できる。

《成績評価の方法》

平常点（レポート・プリント等）60%と筆記試験40%を総合的に評価し、60%以上を合格とする。

授業における平常点は、授業中の課題の作品への評価や授業時間外の学修への取り組みの内容を重視する。

《テキスト》

プリントを配布する。

《参考図書》

三省堂編集部著『新しい日本語表記ハンドブック』第六版 三省堂
池田悠子著『やさしい日本語指導 音韻・音声』凡人社

《授業時間外学習》

授業で取り上げた内容について、日常の言語生活を省察し、課題及び解決策についてまとめる。また、学んだ内容を積極的に活用することで、より定着を図る。

優れた日本語表現の採集を日常的に行い、日本語への自覚を高める。

《課題に対するフィードバック等》

提出されたプリント等は、内容を確認し、講評などを付してフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	コミュニケーションツールとしての挨拶と対話	コミュニケーションツールとしての挨拶・対話のあり方について理解し、演習する。 事後学習：学んだ内容について、実践したことをまとめる。
2	新聞の特質と紙面構成	新聞の特質と紙面構成について学び、複数記事の比較を通して学んだことをまとめる。 事後学習：一定期間新聞を読み続け、その特質をまとめる。
3	新聞記事から要約文・感想文へ	新聞記事を読んで要約し、感想文にまとめる方法を理解する。 事後学習：記事内容を的確にまとめた要約文になっているかを中心に推敲する。
4	要約文・感想文へのまとめ方	それぞれが作成した要約文や感想文を読み合い、相互評価する。 事後学習：要約文や感想文へのまとめ方について学んだことを整理する。
5	随筆から学ぶ レトリックを知る	文章のジャンルとしての随筆の特徴を理解する。レトリック（修辞法）を知る。 事後学習：身近な随筆の例を収集し、随筆の特徴を理解する。
6	随筆を書く レトリックを使う	身近な生活から題材を見つけ、レトリックを使い与えられた字数内で随筆を書く。 事後学習：書き手の思いや考えが読み手に伝わるかを中心に推敲する。
7	随筆を読み合う より良い表現をめざす	書き上げた随筆をグループで読み合い、相互評価する。 事後学習：他の随筆から学んだことを整理し、まとめる。
8	レポートや研究論文の特徴	レポートや研究論文の形式・内容について理解する。 事後学習：レポートや研究論文の例を収集し、形式・内容についてまとめる。
9	レポート作成に向けた資料の収集	テーマに即して、資料等を収集する。 事後学習：関係資料の収集、データの蓄積及びそれらをもとにした考察をまとめる。
10	レポートの作成 説得力のある文章へ	収集した資料・データ等をもとに、説得力のあるレポートを作成する。 事後学習：レポートとしての形式・内容を整えてまとめる。
11	作成したレポートの相互評価・良い表現を学ぶ	作成したレポートをグループで読み合い、相互評価を行う。 事後学習：他のレポートから学んだこと、今後に生かしたいこと等をまとめる。
12	接遇表現と日本語の敬語	接遇表現としての日本語の敬語のあり方について理解する。 事後学習：敬語の種類について整理し、その正しい使い方について理解する。
13	敬語の使い方：手紙文やメール等を想定して	敬語の使い方の実際として、敬語を用いた手紙文やメール文を仕上げる。 事後学習：手紙文やメール文の形式及び敬語を用いた書き方の要点をまとめる。
14	敬語の使い方：電話対応や面接時を想定して	敬語の使い方の実際として、電話や面接時を想定して演習する。 事後学習：電話や面接時の敬語の使い方についての要点をまとめる。
15	今後生きる、日本語と表現	日常の言語生活で誤りやすい日本語表現例をもとに、適切な使い方を学ぶ。 事後学習：今後の言語生活における、日本語の使用にあたっての考えをまとめる。

《教養科目》

科目名	コミュニケーション論				
担当者氏名	永杉 徹夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

知識を超える真の英知に至るための重要な架け橋がコミュニケーションである。本授業は、いかに読み、聴くか、つまりは真の学びについての学習でもある。会話力と文章力を養うために大事な論理的思考の向上をはかってゆく。具体的な事例を取り上げて質疑応答を大切に、テキストを活用しながら進める。時事問題を重視して様々な角度から検討し、私たちを苦しめるディスコミュニケーションがなぜ生じるかも考える。

《授業の到達目標》

あらゆる関係の基盤にあるコミュニケーションのもつ深みを理解する。これにより、進んで発信できる人間になる。新型コロナ禍の下では、とりわけコミュニケーションの問題が浮き彫りになったが、この経験から各自がどう学んだだろうか。それを中心に語りあい共に成長しあう。結果、真の生きがいを感じるようになるために必須の論理的思考力がつき、言葉に強くなり、自信をもって生きていけるようになる。

《成績評価の方法》

筆記試験 80%。授業内で書いてもらう文章（提出し、後日返却）および授業内の発表なども成績に反映させる。また授業に対する真剣度、ノートの取り方、資料のまとめ方なども加味する。筆記試験のほか、これらを総合して10%とする。総合評価60点を合格ラインとする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義の進め方と、受講の仕方	講義の進め方、テキストおよび配布資料等の扱い方を説明し、授業への不安や期待などを話しあうことによって受講のポイントをつかむ
2	真の成熟への道「分かちあい」	人の成長、成熟の源「分かちあうこと」の大切さを具体例をもとにグループごとに考えて発表しあう
3	自我と社会のあいだ	自己と社会の間に存在するものについて考え、自我（エゴ）による差別意識から生じるコミュニケーション不全による紛争、国家間の戦争についても考察する
4	自己実現と自己表現	明言（アサーション）と協調のあいだにあるものと、自己表現の重要性とその裏に潜む「ネットいじめ」や虐待等の問題を明らかにする
5	最新脳科学の成果とコミュニケーション脳	脳科学が明らかにした「ミラーニューロン」と「関係は自己の鏡である」の真意を読み解くことによって、より良い生き方を探る
6	ユーモアと笑いのもつ意味	「解毒剤」とも言われる笑いの効用と意味を考え、生のなかに占めるユーモアの大切さを知ることによって笑顔による人間関係力を養うことの大切さを知る
7	慈悲、慈愛の理解	愛あつての人間関係であり、その根源にあるのは慈悲・慈愛であり、このことへの理解を深めることにより「真に生きる」ことが可能であることを学ぶ
8	「道具的行為」の意味するもの	「コミュニケーション的行為」「道具的行為」などの基礎的用語の意味を理解することによって、望ましい学びと生き方とは何かを考える
9	デジタル化のなかのディスコミュニケーション	急速なデジタル化、SNSなどの効用と弊害について考えるとともに、「スマホ脳」についても自らの見解を持つことの大切さを討議しあう
10	マスメディアの受容	ニュースの読み方とあわせて様々な紛争や犯罪等がなぜ頻発するのか、現実には起きている事例を取り上げ討議しながら考えをまとめる
11	「育てる」ことの科学	幼児教育とコミュニケーション能力の発達は不可分であるが、そのことを具体例を通して考えるとともに実習の成果と反省点についても話しあう
12	「食べる」ことの意味	「食べること」は作る人、食べる人のあいだのコミュニケーションであり、それはまた生きることそのものであることを心身両面から考察する
13	生と死の問題とコミュニケーション	生死の問題を現代的課題としてとらえ、生ある限り「誠実に責任をもって生きる」ためにできることは何かについて、お互いに疑問を出しあい考察を深める
14	日本の精神と世界精神	自国文化と世界精神について、異文化間コミュニケーションをあわせて学ぶことによって国際人としての自覚を養う
15	学習により得たこと、疑問点の話しあい	自己発見と自らの成長をふり返り、これまで学んだことによって得た成果や新しい経験や希望などを話しあう

《テキスト》

永杉徹夫著『ロジカル文章術』（江口デザイン、500円）2021

《参考図書》

貴戸理恵著『「コミュニケーション能力がない」と悩むまえに』（岩波ブックレット）2011
 平木典子著『アサーション入門』（講談社現代新書）2014
 渡辺 潤監修『新版 コミュニケーション・スタディーズ』（世界思想社）2021

《授業時間外学習》

授業内で読んだ資料（コピー等）の復習方法を指示する。また日常生活のなかで生じたコミュニケーションで疑問に感じたことや会得したことも発表し話しあったことを踏まえ、日常の交友や家内での生活も学習そのものであることを念頭に生活する。テキストについての予習については事前に授業のなかで指示する。

《課題に対するフィードバック等》

授業内の時間のうちの一部をつかい、古今東西の名作絵本と一緒に読み、そこに込められている奥深さを味わい、生きることはコミュニケーションそのものであることを学ぶ。

《教養科目》

科目名	健康と栄養				
担当者氏名	鈴木 玉枝、古俣 智江、富重 慶子、雨宮 一彦				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能				

《授業の概要》

健康と栄養に関わる内容について様々な知識を修得する。

《テキスト》

適宜、プリント等を配布する。

《参考図書》

必要に応じて授業の中で紹介する。

《授業の到達目標》

健康で活力のある生活を送るためには、健康と栄養とがいかに密接であるかを述べることができる。

《授業時間外学習》

授業前に配布された資料がある場合は事前によく読んでおき、予習しておく。また、授業で配布されたプリントを用いて復習する（本授業では33時間の時間外学習が必要である）。

《成績評価の方法》

レポート提出(70%)および授業に臨む態度等(30%)を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

レポートや提出された課題については内容を確認し、フィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	朝食と生体リズム (富重)	生体リズムに適した朝食の役割 〔時間外学習〕授業内容の復習(4時間)
2	健康と薬膳 (古俣)	薬膳料理と疾病予防 〔時間外学習〕授業内容の復習(4時間)
3	食とアレルギー (富重)	食とアレルギーについて 〔時間外学習〕授業内容の復習(4時間)
4	健康と食事 (古俣)	自分の食事を理解し、より良い食事を旨するためには 〔時間外学習〕授業内容の復習(4時間)
5	食べ物と微生物 (雨宮)	微生物とは何か 微生物を利用した食品 食品の腐敗と保存 家庭生活と微生物 〔時間外学習〕授業内容の復習(4時間)
6	栄養と食生活 (鈴木)	栄養摂取と生活習慣病の関連 〔時間外学習〕授業内容の復習(4時間)
7	健康危害と微生物 (雨宮)	病原微生物とは何か 食を介した健康危害 食中毒と家庭でできる食中毒予防 〔時間外学習〕授業内容の復習(4時間)
8	スポーツ活動と栄養 (鈴木)	スポーツ活動を行う際の食事の質・量・タイミング、効果的な摂取法 〔時間外学習〕授業内容の復習(4時間)、8回の授業の総括(1時間)
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《教養科目》

科目名	子どもと発達				
担当者氏名	中村 敏男、古木 竜太、高橋 淳一郎、古橋 真紀子				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能				

《授業の概要》

本科目は、幼児保育学科の学修の入門的な内容であり、幼児保育学科のみならず、健康栄養学科の学生で保育や子どもに興味があり、保育所等に就職を希望する学生が教養として、保育学・教育学・心理学の内容を学ぶことができるよう、教養科目として開設する。

《テキスト》

必要に応じてプリントを使用する。

《参考図書》

必要に応じて授業の中で紹介する。

《授業の到達目標》

人間の発達について様々な側面から理解できるようになるために、発達に関する基礎的な知識を身につけるとともに、今日の人間の発達に関わる問題について考察を深めることができる。

《授業時間外学習》

必要に応じて課題を出すので、自己学習を行うこと。本授業では、29時間の時間外学習を必要とする。

《成績評価の方法》

レポート(60%)、観察記録(40%)により評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

レポートは授業の中でフィードバックを行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	発達と教育(高橋)	発達の諸様相・教育の必要性についての理解〔時間外学習〕「育みたい資質・能力」「育てほしい10の姿」について、予習・復習する。
2	からだの発達(古木)	人間の身体的側面の発達の理解〔時間外学習〕「立腰教育」「はだし保育」など「教育」「保育」について予習・復習する。
3	心の発達(高橋)	人間の心理的側面の発達の理解〔時間外学習〕発達段階と発達課題について予習・復習する。
4	言葉の発達(中村)	人間の言語的側面の発達の理解〔時間外学習〕「クーイング」「一語文」「二語文」について予習・復習する。
5	表現の発達(古木)	人間の表現の発達の理解〔時間外学習〕教育要領、保育指針の「表現」の内容を予習し、「ごっこ遊び」の復習をする。
6	発達に遅れがある子どもへの指導・支援(古橋)	発達に遅れのある子どもに見られる遅れの背景・要因、基本的な指導・支援の理解〔時間外学習〕障害の種別について調べ、その特性や把握の仕方について予習・復習する。
7	発達における今日的課題(古橋)	子どもの発達を保障する職業に就くうえでおさえるべき課題の理解〔時間外学習〕特別支援教育の目的、保育指導のあり方について予習・復習する。
8	発達と生涯学習(中村)	生涯学習の重要性の理解〔時間外学習〕これまでの学修内容から設定したテーマに基づき課題レポートを完成させる。
9	・	・
10	・	・
11	・	・
12	・	・
13	・	・
14	・	・
15	・	・

《教養科目》

科目名	ボランティア論				
担当者氏名	武内 道郎				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

地震、津波、台風等の大規模災害、感染症の蔓延などが頻発している。公的援助が届かない部分へのボランティア活動は欠かせないものになっている。世界では、貧困や格差、紛争の続く地域などへのボランティア活動の重要度を増している。この授業では、様々な視点からボランティア活動に必要な知識や、実際にボランティアに取り組む際の準備について学び、ボランティアをやってみようという積極的な態度を培う。

《授業の到達目標》

海外におけるボランティア活動、国内におけるボランティア活動について理解し、説明できる。
ボランティア活動を行う際の、多面的な視点や能動的な姿勢を身に付ける。

《成績評価の方法》

課題レポート70%、授業に臨む態度等（グループワーク、発表、小テスト等）30%により評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

プリントを配布する。

《参考図書》

猪瀬浩平(著)『ボランティアってなんだっけ?』2020年2月、岩波ブックレット
さだまさし(著)『ボランティアをやりたい!』2019年12月、岩波ジュニア新書

《授業時間外学習》

授業前：次の授業回で扱うテーマについて、図書館の関連図書などで予習する。
授業後：授業で配布された資料等をよく読み込み理解を深め、小レポートを完成させる。

《課題に対するフィードバック等》

課題レポートは内容を確認し、講評などでフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ボランティアのすすめ	ボランティアの概念・特徴等について。ボランティア活動の課題[グループ協議]。 準備学習：自分の体験したボランティアやそのイメージを考えておく。
2	災害ボランティア	災害ボランティアと心構え、準備について。災害ボランティアの課題[グループ協議]。 準備学習：どのような災害ボランティアがあるか調べておく。
3	社会福祉とボランティア	社会福祉、高齢者問題等とボランティア活動について。その課題[グループ協議]。 準備学習：どのような福祉分野のボランティアがあるか調べておく。
4	環境問題とボランティア	環境問題とボランティア活動、SDGsの視点からの活動について知る。 準備学習：私たちにできる環境保護活動でのボランティアについて調べておく。
5	国際社会とボランティア	国際社会でのボランティア、様々な国際組織、活躍する日本人について知る。 準備学習：発展途上国でのボランティアはどんなものかを調べておく。
6	教育・子育てとボランティア	教育・子育て分野の抱える課題とボランティアについて[グループ協議]。 準備学習：教育・子育て分野のボランティアのついて調べておく。
7	企業のボランティア	企業の社会貢献活動・社会貢献家について 準備学習：どのような企業の社会貢献活動があるかを調べておく。
8	ボランティアを始めよう	これまでの学習を振り返り、ボランティア活動の準備と注意点について考える。 準備学習：身近にある地域のボランティア活動を調べておく。
9	/	/
10	/	/
11	/	/
12	/	/
13	/	/
14	/	/
15	/	/

《教養科目》

科目名	生活の科学				
担当者氏名	落合 啓志				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能				

《授業の概要》

生活の中にある平凡な事象から科学を見出し、グループ討議・発表、観察・実験などを通して生活に役立つ知識や科学的な見方・考え方を修得する。

《テキスト》

なし、必要に応じて授業の中で紹介する。

《参考図書》

なし、必要に応じて授業の中で紹介する。

《授業の到達目標》

生活の中にある事象について、多面的・多角的・総合的にとらえ、科学的根拠を尊重する態度を身に付ける。

《授業時間外学習》

授業前に配布された資料は事前によく読んでおくこと。また、授業で配布されたプリントは復習を十分に行うこと。

《成績評価の方法》

筆記試験（20%）、毎回の授業のまとめや感想をポートフォリオにて提出（80%）を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

提出されたポートフォリオは内容を確認し、コメントを付してフィードバックします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ニュースから見えてくる科学	ニュースで伝えていることは本当のこと？ だまされないために必要なことは何かを学びます。
2	タマゴから見えてくる科学 実験編	タマゴを使って、いろいろな実験をしてみましょう。 たかがタマゴ、されどタマゴ。そこから科学が見えてきます。
3	タマゴから見えてくる科学 生命編	ニワトリのタマゴの不思議について、いろいろな角度から見ていきます。そこから科学が見えてきます。
4	紙切れ1枚から見えてくる科学	紙切れを使って、いろいろな実験をしてみましょう。 たかが紙切れ、されど紙切れ。そこから科学が見えてきます。
5	タンポポから見えてくる科学	日頃見かけるタンポポには驚かされることがいっぱい。 タンポポを科学してみましょう。
6	チョコレートから見えてくる科学	スーパーやコンビニ売っているチョコレートにも科学が存在します。また環境問題やSDGs問題も潜んでいます。
7	人間のからだから見えてくる科学	人間のからだって意外と不思議。 どうしてこんなことになっているんだろう？ そこから科学が見えてきます。
8	災害から見えてくる科学 試験	地震や台風、水害や雪害など、避けて通れない災害を科学の目で見てみましょう。 第1～8回は、世の中の動きや受講者の学習状況によって一部変更もあります。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		